

2016年の中国の経済・エネルギー需給動向

【2016年の中国経済動向】

2月28日、中国国家統計局は「2016年国民経済和社会発展統計公報¹」(以下、統計公報と略す)を発表し、2016年の経済・エネルギー需給などの指標を明らかにした。統計公報によると、2016年の国内総生産(GDP)は74兆4,127億元(1,215.2兆円、2月28日の為替レート1元=16.33円で計算)、対前年比6.7%増になった。一方、内閣府²の四半期統計速報によると、2016年の日本の名目GDPは537.3兆円であり、中国の経済規模は日本の約2.3倍に当たる。2016年末の中国の総人口13億8,271万人をもとに計算すると、1人当たりGDPは5万3,980元(88万1,493円)になり、前年比6.1%上昇した。

2016年の産業構成を見ると、GDPに占める第1次産業のシェアは8.6%、第2次産業39.8%、第3次産業51.6%であり、第1産業と第2次産業の比重は徐々に低下し、第3次産業の比重は高くなっている。また、2016年の第2次産業生産高の対前年比伸び率は6.0%で、GDP成長率の6.7%を下回り、中でも鉄鋼産業の生産高は1.7%のマイナスになった。

表1. 2016年の主なマクロ経済指標

項目	金額(億元)		構成比(%)		伸び率(実質、%)	
	2015	2016	2015	2016	2015	2016
名目GDP	689,052	744,127	100.0	100.0	6.9	6.7
第1次産業	60,862	63,671	8.8	8.6	3.9	3.3
第2次産業	282,040	296,236	40.9	39.8	6.2	6.1
第3次産業	346,150	384,221	50.2	51.6	8.2	7.8
固定資産投資	551,590	596,501	100.0	100.0	10	8.1
国有	178,933	213,096	32.4	35.7	10.9	18.7
民間	372,657	365,219	67.6	61.2	10.1	3.2
輸出入(億元)	245,503	243,344	100.0	100.0	-7.1	-0.9
輸出	141,167	138,455	57.5	56.9	-1.9	-1.9
輸入	104,336	104,932	42.5	43.1	-13.3	0.6

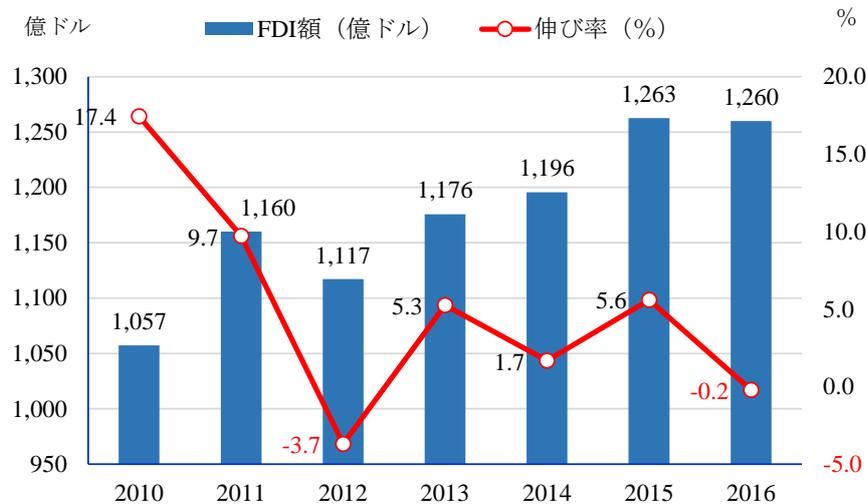
(出所) 国家統計局「統計公報」

「統計公報」によると、2016年の固定資産投資額は60.6兆元、前年比7.9%増、価格要因を除いた実質増加率は8.1%になる。2016年の貿易総額は24.3兆元、前年比0.9%減になった。うち輸出額は13.8兆元(2兆776億ドル、1ドル=6.64円で計算)で1.9%減、輸入額は10.5兆元(1兆5,808億ドル)、0.6%増。貿易黒字は3.3兆元で、前の年に比べ3,308億元下がった。2016年の外資導入額(FDI)は8,132億元(1,260億ドル)で、2015年より4.1%増加した。ただし、国家統計局の「中国統計年鑑2016」によると、2015年のFDI額は1,263億ドルであり、これをもとに計算すると、2016年のFDI額は前年比0.2%のマイナスになる。2016年に新設された海外投資企業は

¹ 中国国家統計局「中華人民共和國2016年国民経済和社会発展統計公報」
(http://www.stats.gov.cn/tjsj/zxfb/201702/t20170228_1467424.html)

² 内閣府「統計表一覧(2016年10-12月期1次速報値)」
(http://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/sokuhou/files/2016/qe164/gdemenuja.html)

2万7,900社で、2015年に比べ5.0%増えた。



(出所) 国家統計局「統計公報」、「中国統計年鑑 2016」

図 1. 2010年以降の各年の外資導入額と伸び率

中国経済成長のけん引力である固定資産投資、輸出、FDIの指標を見ると、2016年の輸出とFDIの伸び率はマイナスになったかもしくは伸び率が下がり、堅調なのは固定資産投資だけになった。但し、固定資産投資も国有資本が中心である。

【2016年のエネルギー需給動向】

「統計公報」によると、2016年の一次エネルギー生産量は合計34.6億tce(24.2億toe)、2015年に比べ4.2%減少した。一方、国家統計局の「中国能源統計年鑑2016」によると、2015年の一次エネルギー生産量は36.1億tce(25.3億toe)である。2016年の一次エネルギー生産のうち、石炭生産量は34.1億トン(対前年比9.0%減、以下同)、原油は1億9,968.5万トン(404.6万B/D)(6.9%減)、天然ガスは1,368.7億m³(1.7%増)である。また、2016年の石炭生産量は2014年から3年連続のマイナスになった。原油生産の低下は主に国際原油価格の下落が原因であり、生産企業は自主的に減産を行ったと見られる。天然ガスの生産量は増えたが、伸び率は1.7%に止まった。国内需要の不足と天然ガス輸入の増加によって、国産ガス生産が殆ど伸びなかったためと見られる。

表 2. 2016年のエネルギー源別の生産

項目	単位	生産				年率 (%)	
		2013	2014	2015	2016	15/16	13/16
一次エネルギー	億tce	35.9	36.2	36.1	34.6	-4.2	-1.2
	億toe	25.1	25.3	25.3	24.2	-4.2	-1.2
石炭	億トン	39.7	38.7	37.5	34.1	-9.0	-5.0
原油	億トン	2.1	2.1	2.1	2.0	-6.9	-1.7
天然ガス	億m ³	1,209	1,302	1,346	1,369	1.7	4.2

(出所) 国家統計局「統計公報」、「中国統計年鑑 2016」

「統計公報」によると、2016年の中国の一次エネルギー消費量は43.6億tce（30.5億toe）、前年比1.4%の増加に止まった。一次エネルギー消費の中で石炭のシェアは62.0%であり、クリーンエネルギー（天然ガス、風力、原子力、水力など）のシェアは19.7%である。石炭消費量は前年比4.7%減少し、原油消費は5.5%、天然ガス消費は8.0%増加した。また、電力消費の5.0%の増加になった。2015年のGDP当たりのエネルギー消費原単位は前年に比べ5.0%下がり、火力発電のkWh当たりの石炭消費は前年に比べ0.97%下がった。ただし、2016年の石炭火力発電、鉄鋼、セメント、石炭化学工業などの生産量は増えており、石炭消費が約2億トン減少したことについてはやや腑に落ちない点もある。

表3. 2016年のエネルギー源別の消費

項目	単位	消費				年率 (%)	
		2013	2014	2015	2016	15/16	13/16
一次エネルギー	億tce	41.7	42.6	43.0	43.6	1.4	1.5
	億toe	29.2	29.8	30.1	30.5	1.4	1.5
石炭	億トン	42.5	41.2	39.7	37.8	-4.7	-3.8
原油	億トン	4.9	5.2	5.4	5.7	5.5	5.4
天然ガス	億m ³	1,707	1,867	1,925	2,079	8.0	6.8

(出所) 国家統計局「統計公報」、「中国統計年鑑2016」により推定

上掲の内容から推定すると、2016年の一次エネルギー消費に占める石炭のシェアは61.7%（若干の差がある）、石油は5.7%、天然ガスは6.2%、水力・原子力・その他が13.5%である。

表4. 2016年の一次エネルギー消費と構成比率

項目	消費(億toe)			
	2013	2014	2015	2016
一次エネルギー	29.2	29.8	30.1	30.5
石炭	19.7	19.6	19.2	18.8
原油	5.0	5.2	5.5	5.7
天然ガス	18.0	19.1	19.6	20.3
水力原子力など	3.0	3.4	3.6	4.1
	構成比 (%)			
石炭	67.4	65.6	63.7	61.7
原油	17.05	17.4	18.3	18.6
天然ガス	5.3	5.7	5.9	6.2
水力原子力など	10.2	11.3	12.1	13.5

(出所) 本調査の推定

国家統計局「2016年のエネルギー生産情況」³（以下、「生産情況」と略す）によると、2016年の石炭輸入は2.6億トンになり、2015年より25.2%増加した。特に中央政府の石炭減産対策に起因する国内炭の供給不足のため、2016年6月以降の毎月の石炭輸入は2,000万トン以上に上り、11月は2,697万トンに達した。2016年末時点の中国の石炭価格指数は、2015年末より44.1ポイ

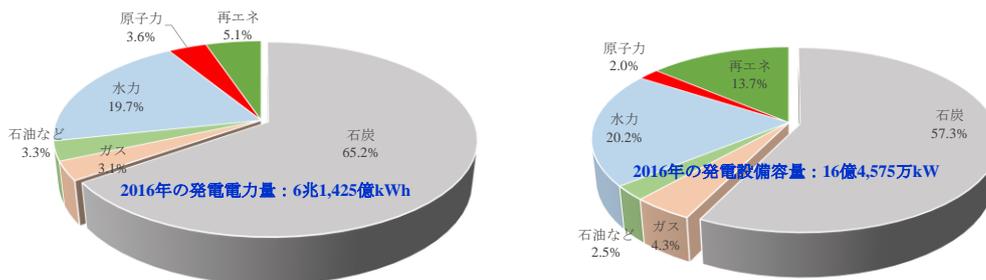
³ 国家統計局「2016年能源生産情況」(http://www.stats.gov.cn/tjsj/zxfb/201702/t20170228_1467575.html)

ントを上昇した。例えば、秦皇島の5,500kcal/kgの石炭は2016年末の価格が639元/トンで、2015年末の価格を269元/トン上回った。特に2016年11月7日には価格は700元/トンに達した。また、2016年の鉄道の石炭輸送量は前年比4.7%減の19億トンに止まった。主な港湾の石炭輸送量も2015年並みの6.4億トンに止まった⁴。

2016年の原油輸入は3億8,101万トン(772万B/D)、前年比13.6%増加し、2016年の原油の対外依存度は66.8%に達した。2016年の原油精製量は5億4,101万トン(1,096万B/D)、3.6%増である。原油の国内生産量と輸入量および精製量をもとに計算すると、2016年の原油在庫は3,969万トン(80.4万B/D)増えた。他方、「生産情況」によると、国内需要が頭打ちのため、石油製品の輸出が急増し、輸出量の対前年比伸び率は、ガソリン・ディーゼル・灯油の輸出はそれぞれ前ガソリン64.5%、ディーゼル115.1%、灯油6.0%に達した。

2016年の天然ガス(LNGを含む。1トン=1,380m³)輸入は745.6億m³(5,403万トン)、前年比22.0%増加した。2016年の天然ガス消費の対外依存度は35.9%である。

「統計公報」によると、2016年の発電電力量は6兆1,424.9億kWh(5.6%増)、うち火力発電が4兆4,370.7億kWh(3.6%増)、発電電力量に占めるシェアは72.2%である。水力発電は1兆1,933.7億kWh(5.6%増)、シェアは19.4%、原子力発電は2,132.9億kWh(24.9%増)、シェアは3.5%になった。また、「生産情況」によると2016年の風力発電電力量は2015年より27.6%増加し、太陽光発電は58.8%増加した。2016年の発電設備容量は合計16億4,575万kW(8.2%増)、うち火力発電が10億5,388万kW(5.3%増)、水力発電3億3,211万kW(3.9%増)、原子力発電3,364万kW(23.8%増)、系統連系風力発電1億4,864万kW(13.2%増)、系統連系太陽光発電7,742万kW(81.6%増)である。



(出所) 各種の資料により作成

図2. 電源別の発電電力量(左)と設備容量(右)

ただし、石炭火力発電電力量と設備容量をもとに計算すると、2016年の石炭火力発電の平均稼働率は2015年の49.4%よりさらに低下して47.3%となり、発電能力の過剰状況は悪化している。各地方は石炭火力発電を確保するため、風力・太陽光発電の発電電力量を放棄している。

⁴ 北方7港(秦皇島、黄驊港、唐山港、天津港、青島港、日照港、連雲港)、沿海部のその他港湾(營口港、錦州港、煙台港、防城港)、長江4港(宜昌港、武漢港、蕪湖港、南京港)及び運河港(徐州港)。

最後に、「統計公報」によると、都市部の環境状態については、監視対象の338都市の中で、大気状況が中国の基準を満たしている都市は全体の24.9%に止まり、75.1%の都市は基準を満たせなかった。また、基準を下回った都市部のPM2.5年平均濃度は $52\mu\text{g}/\text{m}^3$ に上った。

(エイジアム研究所 首席研究員 張 継偉)

Asiam Research Institute <http://www.asiam.co.jp/>